

介護助手職員雇用状況アンケート調査（川崎地区特別養護老人ホーム）

1 貴施設の状況

☐ 特養 37 施設 総定員 3,124 名 (1 施設 84 人)

☐ 併設デイ 17 施設 総定員 506 名 (1 施設 29 人)

2 介護助手雇用状況

☐ 採用している。 151 名

・ 特養 149 名：採用施設 26 施設（回答施設の 70.2%）（回答 1 施設当たり 5.7 人）

・ 併設デイ 2 名：採用施設 2 施設（回答施設の 11.8%）（回答 1 施設当たり 1 人）

☐ 特養・併設デイとも採用していない。 11 施設（回答特養の 29.7%）

3 雇用の主な理由 ※最も大きな理由を 1 つ選んでください。

☐ 人手不足 (2) ☐ 職員からの要望 (1) ☐ 介護職の負担軽減 (15)

☐ 業務の効率化 (6) ☐ 直接介護の充実 (4)

☐ その他 (1)

・洗濯 2 名、障害者雇用 2 名、70 才以上の高齢者 1 名

4 介護助手業務に対する考え方

☐ 介護助手業務とは言え本来介護職の業務であり、介護職がやるべきと考える。(1)

☐ 介護助手業務と介護職業務を完全に分け業務の効率化と質の向上を図りたい。(18)

☐ その他 (7)

・障害者雇用、シルバー人材、運転手として採用している。直接介護の充実に向けた分業として機能している現状で良いと考える

・完全分担ではなく、効率化重視

・お互いを支え合うことで利用者支援の質を高められる

・介護助手業務を担ってもらえることにより、介護職員がご利用者様に関わる時間と介護業務の質の向上を図りたい

・それぞれの能力に合わせて業務分担

・「完全に分け」は不可能

・助手、補助とはいえ、それぞれの担当業務には、専門性を持って担ってもらっているようにしている

5 今後の採用について

☐ 出来れば追加採用していきたい。(9) ☐ 現状で十分 (17)

☐ 減らしていきたい。(0)

6 介護助手雇用の課題 ※複数可

☐ 雇用経費が負担となる。(5) ☐ 介護職との賃金差がない。(3) ☐ 応募者がいない (9)

☐ 利用者への対応が不安 (3) ☐ 介護職との協調が心配 (6)

☐ 直接介護業務との切り分けが難しい。(7) ☐ 特にない。(6)

☐ その他 (5)

・シルバー人材を活用している為どこまで継続してもらえるか心配

・時折、補助業務を軽視しているような勤務状況になる人がいること

・配属部署によって業務内容に違いがあり、介護助手間で問題視している状況がある

・シルバー世代なので、理解力、体力を考える必要がある

- ・介護助手を雇用することによって直接介護の充実を図っても、介護職員としてカウントできないため加算等の要件が満たせない

7 採用していない理由 ※複数可

☐採用したいが職員が集まらない。(0) ☐資金に余裕がない。(2)

☐直接介護との切り分けが難しい。(3)

☐介護助手の導入効果に期待できない。(2) ☐現状の職員で足りている。(1)

☐全ての業務を介護職が行うこととしている。(1)

☐介護助手業務の多くを委託で対応している。(2)

☐その他 (4)

・法人の方針にて介護職員採用条件として有資格者(介護福祉士、初任者研修修了者)としている為

・行ってもらえそうな業務が少ない

・すでに介護助手と同じ業務をしているスタッフがいる

・現段階では、介護職がなんとか業務を行っている。今後介護助手と業務の分担等を検討し、うまく分担ができるようであれば導入も考えたい

8 介護助手業務のあり方についてどう考えますか。

☐簡単な研修を受講させた後、状況に応じて簡単な見守りや車椅子押しなどをさせたい。(16)

☐現行どおり直接介護業務と明確に分けて業務を行っていった方が良い。(16)

☐その他 (6)

・求人すると無資格者からの応募はあるが、資格取得が採用条件と伝えたと、多くの方が辞退されてしまう。初任者研修(介護職員)受講料の補助を行政でしていただけると福祉業界に入職される方が増えると思う

・設問の両方とも必要であり、介護助手の資質、本人の希望により選択させたい

・入居者の移動に関し車椅子のみ可としている。介護業務とは切り分けるようにしている

・簡単な見守りや話相手になってもらいたい

・70才以上の高齢者にはレクリエーションなどを中心にやっていただいている。それぞれの能力、得手不得手に合わせて分担していく

・スキルアップ、キャリアアップの機会も設けていく